

# せいりょう園

[発行] 社会福祉法人はりま福祉会 特別養護老人ホームせいりょう園

〒675-0016 兵庫県加古川市野口町長砂 95-20 TEL 079-421-7156 FAX 079-421-6422

平成20年3月 第85号 年間購読料1,000円(1部100円)

メール seiryoen@bb.banban.jp ホームページ <http://www.seiryoen.or.jp>

## ベストを尽くす姿こそ尊い

オーストラリアのクリスティーン・ブライデンさんは、アルツハイマー病に罹ってからの様子を『私は誰になっていくの?』という本で明らかにし、その後の様子を『私は私になっていく』と二冊目の本に書かれています。

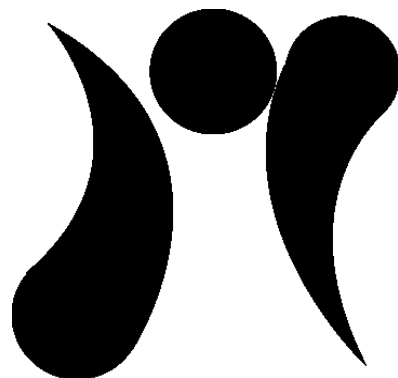
順調な社会生活を支えてきた知性や理性を徐々に失って、「自分はどうなってしまうのか?」という不安に駆られている初期の頃の様子から、やがて病状の進行に連れて感情も支離滅裂になりながらも、長年の生活で培ってきた感性や感覚を以って今を生きている自己の魂を実感し、本当の自分になっていく、と認知症を肯定しておられる様子が伺えます。

グループホームや特養の中で、認知症の方々の暮らしを見ていると、結果は上手くできないながらも、いま持っている力で懸命に生きようとしている事を実感します。ご本人にとっては、それ以外に選択肢の無いベストの行為である事を強く感じます。ベストを尽くしながらも、悪い結果を受け入れざるを得ない姿は、マッキンレーに散ったであろう植村直己さんに重なります。

かつて糸賀一雄さんは知的障害の子供に対して『この子らを世の光に』と言われました。知的能力は低くても懸命に自己実現に努める姿に、人としての最も尊い価値を見い出され、彼らが世を照らす光になる存在である事を発信されました。それから数十年が経ち、いま認知症の方々の存在に世の注目が集まっています。ベストを尽くして懸命に生きる姿は共通しているように思います。

(次ページにつづく)

せいりょう園 渋谷 哲



(前ページのつづき)

世界は今、多様な人々と多様な価値の共存するユニバーサル社会を目指しています。単一価値で統一された社会は、一時的には活気があるように見えても非常にもろく、短期間で崩壊する事を実証したのが20世紀でした。少数民族や障害者が意欲的に生きる社会を目指すのがノーマライゼーションの理念であり、少数者の差別を禁止し、彼らの暮らしを支援する施策が強く求められています。多数者に同化する事や障害を防止する事よりも、少数民族のその風俗や習慣に添った暮らしに価値があり、障害者が障害のままに暮らす姿に価値があり、その暮らしが社会に理念と活力をもたらすのです。

現在の日本は、年間約83兆円の国家予算を、30兆円前後の国債を発行して執行しています。社会保障給付費は年間80数兆円を超えています。社会保障施策の動向と社会保障給付費の行方は、日本社会の経済活力と国際的信用力を大きく左右する時代になり、福祉施策の実施状況が国債の評価ランクに直ぐに影響します。

介護保険法や障害者自立支援法は、日本をユニバーサル社会に導く為の優れた施策です。認知症の人が認知症状のままに暮らし、障害者が障害のままに暮らす事の価値を認め、より高めるのが施策の原点です。その意味では、今強く推進されている介護予防や認知症予防の掛け声は、世界に共通する価値と潮流に反する、大きな矛盾を孕んでいます。認知症の人や障害を持つ人が、光り輝く存在である事を前提に、その光と輝きをより強くする為の施策が推進される社会であって欲しい、と思います。

個人が主体の社会、地方分権の時代になり、我々一人ひとりが自分の暮らしの場で、地域社会で、人として最も尊い姿、最も大切なもの、を見失うことの無いように心掛けたい、と切に願います。

- \* \* \* せいりょう園の行事予定 \* \* \***
- \* **3月3日(月) ひな祭り** \*
  - \* **3月4日(火) 日岡保育園交流会** \*
  - \* **3月5日(水) 誕生会** \*
  - \* **3月7日(金) 外出** \*
  - \* **3月12日(水) 昼食会(お好み焼)** \*
  - \* **3月17日(月) 美容の日** \*
  - \* **播磨学園の園外実習** \*
  - \* **3月22日(土) 彼岸の法要** \*
  - \* **3月24日(月) 理容の日** \*
  - \* **3月25日(火) 外出** \*
  - \* **3月26日(水) 消防訓練** \*
  - \* **郷土料理(鯛めし)** \*
  - \* **3月28日(金) 介護者の集い** \*
  - \* **～ボランティアの役割と貢献～** \*
- \* \* \* \* \* \* \* \* \* \* \* \* \***

### ケアハウス等空き情報

<平成20年 3月 7日現在>

#### <ケアハウス>

・めぐみ苑	: 1人部屋	3室
・シスナブ御津	: 1人部屋	1室
・清華苑シバライフ	: 1人部屋	1室
・アゼリア	: 1人部屋	4室
・保月の郷	: 1人部屋	2室
	: 2人部屋	1室
・青山苑	: 1人部屋	2室
・香楽園	: 2人部屋	3室
・あさなぎ	: 1人部屋	1室
・キャッシル真和	: 1人部屋	1室
・せいりょう園	: 1人部屋	1室

**[問合せ]せいりょう園介護相談室**

**(079)421-7156/(079)424-3433**

◎投稿作品◎

◇グループホームにお住まいの

石谷 寛三様の作品です。

毎日、日課のようにして

ホワイトボードに一首書かれます。

非常にウンチクのある川柳で、

なるほどとうなずいてしまいます。

思い出も八十越せば多過ぎる

死の世界一応みてから死にたいよ

去り行く冬に未練なく早く触れたい春の風

働けと言はぬばかりのいい天気

グループのはみ出し者と分かっても止められない

死にたいと言った矢先に菓飲む

年重ねまだ生きてるよ人として

洗顔の水の冷たさ寒を知る

曜日は関係ないのに知りたがる

終点がいつか解からぬ人生は

マイペースで楽しくいこう



「一人旅」(新聞掲載より抜粋)

草を分けて

風が通り過ぎた

遠くから長い貨物列車の

汽笛が響く

黄昏の時

夕暮れの色

何処かへ帰りたい気がする

一人旅も終わりが近い

お父さん 三十六才

お母さん 二十九才

わたし 八十四才

もしあの世で出合つて

わかるでしょうか

十才の時残してきた一人娘だと

◇ケアハウスにお住まいの 三浦 サカエ様の作品です。

ふと心に思ったことをそのまま書きとめられています。

「ご自分の生活を大事にされながら、地域の方々ともよく交流されて、まわりをも優しく包んで下さいます。」



# 介護現場発情報

～かけがえのない<sup>ひととき</sup>一刻を～

ユニットより

ユニット池の向2丁目リーダー 塩田 知加

ユニットが始まって、5ヶ月が経とうとしています。ユニットが始まった当初は、一からのスタートで職員も、また利用者の方もいきなり今まで暮らしていた場所から新しい自分だけの居室が出来るという事で、とまどいで一杯だったと思います。5ヶ月たった今でも、夜になると「ここは私の部屋じゃない。」「何でこんなところに一人でおいとくの?」「さみしい。」と訴える方がおられます。ただ「ここに9月から引っ越したんですよ。」と言うだけでは納得されません。ユニットへ変わり、まだ適応しきれていない方に対する援助方法を考えていかなければならないなと感じました。

一方では、居室とホールとが近い事によって、食事を摂ると居室へ戻り居室で過ごすという方が多くなり、特養では、自分だけのスペースがなく夕食が終わるまで食堂で過ごしていた方にとっては、良い環境が提供できているのかなと感じました。また、以前より利用者の方と濃密に関わる事が出来るようになり、話を聞き合える時間が増え、利用者の方の思いや職員の思い両方が伝わりやすくなりました。今までは、職員に対して「忙しそうだから...。」と遠慮がちだった方や、「この方は自立しているから介助しなくても大丈夫」と関わる事があまりなかった方と話す機会がもて、その方の困っていることや介助を要している部分に分かり、信頼関係を築く事も出来とても嬉しく感じています。

ユニットで個人の生活リズムに合わせた生活援助をしていくうちに、いかに今まで職員主体の援助になっていたかが分かり、反省点が沢山ありました。ですが、10人の利用者の方を1人ないし2人で介護するとなると、してあげたいと思っても限界があり、不満や嫌な思いをさせてしまう事があります。例えば、トイレに行きたいと訴えがあってもすぐに対応できずパット内にでてしまったり、尿意があっても立位がとれずトイレ介助がなかなか出来ない方には「オムツにするのは仕方ないけど、漏れたり臭ったりしたら嫌だし、全部すっきりいきらない」と不快な思いをさせてしまっている事です。

ユニットのリーダーの一人として、限られた中でどう援助していけばその方に合わせた生活をしていただく事が出来るか、今日の援助の仕方で良かったのか、毎日今まで以上に考えるようになり勉強になりました。考えて行動する事によって、喜んでいただけ笑顔でいられる時間を増やす事が出来るという事は、大変ではありますが楽しい事でもありとても嬉しく思っています。ただやるべき業務をこなしていくのではなく、他に困っていることがないか、こんなことをすれば過ごしやすくなるのではないかと利用者の方へアドバイスするなど、業務にはない援助を行い限られた中でより利用者の方が本当に望んでいる援助を行ってあげたいと思います。

家族の方も以前より面会にこられる頻度が増え、利用者の方もとても喜ばれています。ユニット2丁目の利用者の方は、介護度も高く、自分の思いを訴える事があまりない方や思いどおりに訴えられない方もいて、その方に合わせた援助が

難しいユニットではありますが、家族の方の声や利用者の方の思いを出来るだけ汲み取り、よりよい援助をしていく事がどんどん出来ればと思っています。

### 特養より

#### 厨房研修の感想



別府 克彦

厨房研修の1ヶ月間、怒られたり、注意されたり、たまには褒められたりと色々あったけど、「以外と早かったな」というのが一番の感想です。

学生時代から家庭科の授業が大嫌いで調理実習の時間になると逃げ出していたから、ろくに包丁も持った事がなく、この実習を告げられた時はとても不安で「1ヶ月かぁ...長いな...」と何度も思いました。でもいざ入って仕事してみると、厨房はとても忙しく、仕事量の多さと覚える事の多さで不安に思っている暇もない程でした。そんな大変な中で嬉しい事もあって、僕の作った料理を利用者の方が「今日は良かったわ」「また頼むね」「ありがとう」等の言葉をいただいた時はこちらも頑張ろうという気持ちになりました。

厨房は特養のすぐ隣にあるのに知らない事が多かったけれど、研修で入ってみた事によって、仕事の流れや手順、しくみ、そして厨房職員の気持ちが少しは分かる事ができ、今まで何気なく窓越しに接し、注文を付けたり、勝手な事を言っていたけど実はとても重要で協力していかなければならない存在だと思いました。また、今回の体験で現場に戻っても生かす事ができる知識や考えを得られたと思います。

厨房職員さん、仕事はとても遅かったと思いますが、親切に分かり易く教えてもらえていい研修がおくれたと思います。ありがとうございました。



### ヘルプーステーションより

藤城 有祐

私がせいりょう園で働くようになり、もうすぐ6年となります。この6年目を迎えるに当たり、昨年3月にホームヘルパーへと異動する機会を頂きました。早いもので、気付けば1年間もホームヘルパーとして、利用者さんと時を過ごさせて頂いています。

利用者さんから、「あなたが来て、ここが明るくなった。」「あなたから、いつも元気をもらうの。」「良く頑張っているね。」など、ありがたいお言葉をかけて頂き、充実した日々を過ごしています。

しかし、『まだまだだな...』と思う事の方が多いです。家事援助では、掃除は他のホームヘルパーさんに比べると、行き届かない点があるように思いますし、要領が悪く、時間内に出来る事が少ないように思います。洗濯物を干すのも、『どこにどうやって干せば、限られたスペースで早く乾くんだろう...』と毎回四苦八苦しています。他のホームヘルパーさんが干した洗濯物を取り込む際、『なるほど！こうすればいいんだなあ。』とよく感心しています。不器用な私は、裁縫は苦手ですし、

調理など目も当てられません。家で野菜炒めくらいしかしませんから、手の込んだものを頼まれても、返事に困ってしまいます。夜勤を担当する際、一人である為、利用者のどなたかに何かないかと不安でなりません。また、夜間であれ日中であれ、限られた時間の中で、何をどこまでどのようにすればよいのかと、常に素早く判断しなければならず、あとで振り返ってみると、『あの時こうしていれば...』とか、『あの時、もう一声掛けられたのに...』と思う事がしばしばです。

これからも、毎日が勉強の日々だと思えます。利用者さんにより良い時間を過ごしていただけるよう、努力していこうと思えます。



地域支援センターのぐち南

相談員（社会福祉士） 吉田 知一

今でこそ、認知症を患っている方と接する機会が多く、認知症がどのような病気であるのか、ある程度理解が出来ていますが、この仕事をする前はいろんな情報から認知症という病気が私の中で一人歩きしてしまい、勝手な想像をしてしまいました。しかし、実際に認知症を患った方と接して思ったことは、何も特別なことはなく、自分と同じ人間であることになんら変わりはないのだと教えていただきました。認知症の方と接してはじめてその病気に触れることが出来、理解することが出来ましたが、未だに接したことのない方、「介護」というものを身近に感じたことのない方には、以前の私と同じように、良からぬ先入観が一人歩きして構えている方が多いのではないかと思います。

日々の相談や地域活動をしていても感じるのですが、認知症を患っている方の火の元の心配は尽きませんし、ただでさえいろんな情報が飛び交っている世の中ですので、認知症を患っている方、障害を持っている方に対する見方は厳しいものがあります。過剰に反応してしまい、物忘れなどの症状だけで何でもかんでも認知症というくりにされてしまうことがあります。私自身も、認知症という病気が身近にあるせいなのか、何が認知症なのか自分自身が麻痺してしまうことがあります。今回は、そういった先入観が原因で判断に困ったケースを紹介したいと思います。

地域支援センターのぐち南に一本の電話がありました。一人暮らしをされている高齢者の男性でした。「最近、物がよく無くなるんです。ドアの鍵も何回も替えているのに・・・きっと鍵の達人が私を狙っているんだと思うのです。怖くて不安なのでなんとかして欲しい」とのことでした。鍵の達人！・・・認知症を患っている方だろうか・・・。

事態が飲み込めない私は、まずは訪問して詳しい話を聞く事にしました。

訪問時、ドアには「某総合警備保障」のシールが貼られており、インターフォンは標準のものと違いカメラつきのものでした。お邪魔するとドア裏には特殊なカギが何種類も設置されていました。本人はというと、背筋も伸び、整容もしっかりされている方で、お聞きした年齢よりも若く見える方でした。部屋の中もキレイにされており、行き届い

た掃除をされているように見受けられました。

詳しい話をお聞きすると、かれこれ10年程前から空き巣に入られているとのこと。これまでに盗まれたものは、10万円ほどのスーツや食器、ロレックスの時計、化粧品、シーツなどで荒らされた様子はないとのこと。時々、タンスの中に盗まれた着衣やシーツが入っているという。それはどれも汚れているので、泥棒が使用したものをわざわざ戻しに来ているのだと本人は考えているようでした。カギを15回も替えているが効果はなく、警察にも通報しているが相手にしてくれないし近所の方々に相談したがボケ老人扱いされ相手にされず、近所の方との交流もほとんどなく家族や親類は遠方とのことでした。

しばらく沈黙があり、小声で核心に迫る発言が出ました。「実は・・鍵の達人の犯人は、隣に住んでいるご主人だと思っております・・・」何か思い当たる節でもあるのですか？と聞くと「隣のご主人が、夜中にベランダからベランダへ飛び移るのをカーテン越しに見たので間違いないです！しかも口笛を吹きながら！」

思わず想像してしまい不思議な気持ちになってしまいました。もう少し本人の様子を伺いながら話を聞く事にしました。

始めの内は、認知症を患っている方なのかな？と思いましたが、話をしていく内に私は、この方には本当にそう見えているのではないかと、聞こえているのではないかと・・・と思うようになりました。物盗られの妄想以外の会話にはおかしいところは全くなく、むしろ最近起こった短期記憶を事細かに覚えていました。

とりあえず、今日は話を聞いてもらったのですっきりしたとのこと、今後も訪問し関わらせていただく形で帰ることになりました。

まずは、信頼関係を築こうと精一杯でした。次にこの方の情報を集めました。家族、町内会長、民生委員に連絡をとりこの方の状況を聞かせてもらうと共に、今後どのように接していくかを話合う機会を持ちました。この時に分かったことですが、やはり物盗られ妄想が原因で近隣の方とのトラブルがあったようなので、地域住民の方々の理解も必要になってくるだろうと考えました。

さて、この方の症状はどういった病気だったのかは、結局のところ分かりませんでした。精神科的治療の必要な方ではないかと考えましたが、本人自身はその必要をまったく感じていなかったため、時間がかかりましたがあの手この手を使って受診に何とか至りました。他の人には見えない何かや、聞こえないものが、本人には見えたり聞こえたりして、それを誰も理解してくれないことが非常に苦しそうでした。初めに先入観で認知症を疑いましたが、以前、通院している病院の主治医から認知症のテストを受けたようで、認知症ではなく全く問題はなかったようです。いずれにせよ、どんな病気であったとしても、この方であることに変わりはないのだろうと思っていた。

普段、私達が認知症を患っている方だと思って接している方でも、先入観がなければいかもしれません。先入観だけで判断することは非常に危険なことです。その人の能力を推し測ることで、本人の出来ることを抑制するようなことになってしまっているのではないかと、私は思いました。我々専門職の間違った判断で、本人を苦しめないよう、考えさせられました。

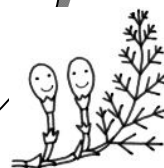
## 4月・介護の出発点に立つ貴方へ

春、新たに介護に従事する方々を職場に迎える季節になりました。介護の出発点に立つ貴方に、一つの言葉を贈ります。『如実知見』物事の本質と一側面を取り違えず、現実をありのままに見抜くこと。

- 1 介護は、自分とは違う感性・感覚・価値観を持つ『他者』の生活を成り立たせる行為です。自分を出発点にしないで下さい。その人をありのままに観る処が出発点です。
- 2 介護を必要とする人は、その原因となる障害を受容して、今を懸命に生きようとしています。上手くできない結果は諦め、その『懸命さ』を評価して下さい。今を生き抜く生活力や生命力を称えて下さい。
- 3 老いて懸命に生きる姿は、人として何にも増して尊い『価値ある暮らし』です。遺伝子では伝わらない事柄を介護を通して、日々の暮らしの中で伝えようとする長寿の貴重な『贈り物』です。そして主役として自ら幕を下す準備期間です。
- 4 障害を受容した人は、過去のその人とは違う立場に立ち、違う価値観で生きる人に『変身』しています。前歴やご家族の記憶は程ほどに参考として、今のその人の立ち居振る舞いを素直に観て、聴いて、見えない変身の過程を感じ取って下さい。
- 5 『主役』として世を去ることが全ての人の願いです。人が世を去る場に寄り添う立場に居る介護者は、脇役として主役との『距離感』が最も大切です。成年後見制度も医療や福祉の制度も、要介護や認知症の人が『主役として生きて死ぬ』暮らしを応援しています。主役を振り回さないで下さい。

介護の現場に身を置くとき、介護現場での経験は、貴方の私生活での判断力にプラスとなる経験になり、私生活での様々な葛藤や苦労が、仕事上でのスキルアップにつながる経験となります。この職業を大切にして下さい。

せいりょう園 渋谷 哲



## せいりょう園のびのびルームボランティア募集

お年寄りと共に午後のひとときを過ごしてみませんか？

都合のよい曜日にお手伝いをお願いします。(13時～15時)

- 月&木曜日：自彊術（自彊術の先生が来られますので一緒に体操してください）
- 火曜日：映画会
- 水曜日：カラオケ

【問合せ】せいりょう園 TEL(079)421-7156 担当：北野（キタノ）